



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ケ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成28年3月2日

第11号

卒業おめでとう！～より高きを目指せ～

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

私が3年生の皆さんとともに過ごしたのは、1年間だけでしたが、挨拶がとてもさわやかで、何事にも全力を尽くす姿にたくさんの感動をもらいました。

熱い思いが込められた新入生歓迎会。これが「市高大好き！」の始まりなのだと実感しました。奇跡的な晴れ間と当日早朝からのグラウンド整備で、全てのプログラムをやり遂げた体育祭。3年生のリードで全校生徒が肩を組み、校歌を歌う姿は、青春そのものでした。皆さんには、「青春」ということばが本当によく似合います。

文化祭では、ほとんどの賞を3年生が獲り、最上級生としての気概を感じました。後夜祭の後、仲間と見上げた夜空の花火は、「市高最高！」という言葉とともに、一生の思い出になることと思います。

皆さんは、覚えていますか。1学期の始業式で、「受験は団体戦だ！」と私が話したことを。私は、自習室や教室で、仲間とともに勉強に励む3年生の姿をよく見かけました。また、早い時期に進路の決まった人たちが、一般受験の人たちにお守りを作って渡したという話も聞いています。40期生の皆さんは本当に仲がよく、まさに一つの「チーム」でした。

◆◆40期生への期待

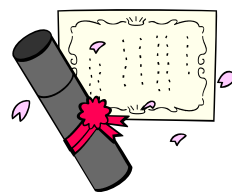
皆さんは、この市ケ尾高校で「文武両道」の校風のもと、たくさんの先生方や仲間と出会い、知性と心を磨き、大きく成長しました。皆さんは、豊かな資質と能力に恵まれています。そんな皆さんに、私は期待を込めて、この1年、「より高きを目指せ！」と励まし続け、いろいろな場面で話をしたり、書いたりしてきました。今日は、皆さんの門出にあたり、三つのことを話します。

一つは、失敗を恐れず、新たなことに挑戦し続けてほしいということです。皆さんには、無限の可能性が 있습니다。しかし、無難なことに留まっていたら決して可能性は広がりません。困難なことでも、全力を尽くして小さな目標を積み重ねていけば、必ず大きな目標にたどり着きます。たとえ途中で失敗しても、そこで諦めずに工夫と挑戦を続けるならば、それは、成功や達成のための通過点です。自分を

信じて、一步を踏み出す勇気を持ち続けてください。

二つ目は、人とのつながりや出会いを大切にしてほしいということです。人は、多くの人と支え合って生きています。一つの出会いが次の出会いを生み、人生を変えるような大きな出会いにつながることもあります。また、困難な状況にあっても、多くは、誰かの支えや出会いによって道が開けます。よき出会いのために、自らも人間性を磨き、どんな時でも、誰に対しても誠実でありたいものです。

三つ目は、社会に大いに貢献してほしいということです。皆さんには、社会の中核で活躍できる資質と能力があります。私は、皆さんが、より多くの人のために力を発揮してくれることを期待しています。社会や世界、そして、未来を見据え、高い志を持って大いに活躍してください。



◆◆ノーベル賞を受賞した大村智さんの偉業

さて、皆さんが高校生活を送った3年間に、5人の日本人がノーベル賞を受賞しました。私は、その中でも、昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智さんの生き方に、とても感銘を受けました。

大村さんの受賞理由となった「イベルメクチン」という新薬は、開発して間もない頃から、失明や下半身が腫れ上がる感染症の予防薬として、発源地域に無償で提供されています。それができるのも、大村さんが、巨額の特許を放棄しているからです。その薬のおかげで世界のおよそ2億5千万人が感染症から救われ、現在も、年間3億人の人々はその恩恵を受けています。

大村さんは、定時制高校の教員を退職し、研究者を目指した時、その経歴では研究者としての将来性がないと周囲から言われましたが、それを聞いて、「日本でダメだというなら、世界を目指せばいい」と思ったそうです。そして、若い研究者には、いつも、「失敗を恐れず、新しいこと、人がやらないことに挑戦してこそ人を超えるチャンスをつかむことができる」と話されているそうです。また、大村さんには、常に「人のために」という思いがあります。本当に素晴らしいことだと思います。

